

イスラエルのための祈り

2008年9月1日 アシェル・イントレーター

I. 幼児殺害

先週にわたり、イスラエルのニュースは二件の無惨な幼児殺害の報道によって占められていました。1件目はロニ・ロンが彼の息子の嫁と性的関係を持ち、嫁の娘(彼の実の孫娘)である4歳のローズを殺害し、スーツケースに詰めてヤーコン川へ投げ捨てたというものです。

2件目はオルガ・ポリソフという母親で、彼女は鬱病を罹患し報道によれば夫から虐待されていました。絶望に駆られ、彼女は4歳の息子アロンを連れ、バット・ヤム近辺の海で息子を溺れさせました。

これらの犯罪は罪の醜い性質を表しています。自分の罪と、自分の民の罪を悔い改めましょう。これらの犯罪が人々に赦し、清め、そして救いが必要であると知らしめ、人々を神へ近づけさせるものとなりますように。

古代の偶像礼拝の基本的な土台は性的不品行でした。(現代の偶像礼拝も同じと言われていいます。)性的不品行に関するこの「問題」は、それが「望まない」妊娠を生じさせるというものです。望まない子どもたちはどうにかして処分しなくてはならないのです。それゆえ、儀式的な幼児殺害は「霊的な」不品行の結果なのです。

申命記 12:31-彼らは、主が憎むあらゆる忌み嫌うべきことを、その神々に行い、自分たちの息子、娘を自分たちの神々のために、火で焼くことさえしたのである。

中絶と並行するものは明らかです。誰もが中絶を「望んで」いるわけではありません。それは、性的不品行を要求する情欲なのであり、それが望まない赤ん坊を生むのです。そこで、これら迷惑な小さいものを処分するという「厄介な」問題があるのです。

これらの幼児殺害は両親によって行われました。大勢の両親の心に子どもたちへの愛と信頼を取り戻す必要があります。これは終わりの時にエリヤの霊が行うと思われることがはっきりと預言されています。

マラキ 4:5-6 - わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。(後略)

今年のイスラエルでの全国青年大会「One Thing- 一つのこと」において、私は舞台の上でひざまずき、若い世代に対して両親世代の罪の許しを求めました。私たちは、イスラエルの地において

終わりの時のリバイバルの一部として、神の霊が全世代に対して回復と癒しをもたらして下さるよう祈りました。

II 夏の宣教活動

どうか今年の夏の宣教活動の中で蒔かれた種が実りますようお祈り下さい。特に若い大人たちのグループでの分かち合いをビーチで導いているアディ・Sさんとリアット・Aさんのためにお祈り下さい。また、この秋にゼエヴ・N 師によって導かれているジュー・フォー・ジーザスのキャンペーンにおいて実りがあることをお祈り下さい。

III 10代の集中弟子訓練

どうか開催終了したばかりの10代の夏期集中弟子訓練プログラムの実りについてもお祈り下さい。私たちは最良の若い10代の弟子たち12名を選び抜き、早朝5時から夜遅くまで行われるプログラムに参加させました。先週の水曜日(8月27日)、テル・アビブでの若者たちの晩の祈りと断食をヨエル・Yさんが導きました。神はこれらの若者たちの心を確かに奮起させています。

IV ヤド・ハ・シュモナ

どうか、エルサレム郊外にあるメシニック・ジューが運営するキブツであるヤド・ハ・シュモナの霊的、資金、そして人間関係における祝福のためにお祈り下さい。私たちは祈りと訓練のセンターをこの場所へ移動させたばかりで、神の御心にあることについて私たちは心躍っています。ここでメシアのからだに対し何か重要なことが起こるものと私たちは信じています。

V イスラエル人牧師の議論

この金曜日(9月5日)に開催される全国イスラエル牧師集会のためにお祈り下さい。指導者たちの間で継続する議論があり、それはユダヤ文化要素やラビ的伝統がどの程度各地のイスラエル人メシニック共同体の中で取り入れるのかというものです。(下記の記事参照)

律法ののろい

聖書は最初から終わりまで一貫していると私たちは信じています。ほぼ2000年の間に多くの様々な執筆者が記述しましたが、それは同じ神の霊によって靈感を受けたものです。真実はそれ自身と矛盾することはありません。聖書の原則は創世記から黙示録まで発展し、同じテーマについて成長、拡大させています。

私が聖書を学べば学ぶほど、聖書がいかに完全に一貫しているか見ることができます。聖書の最後の3章は最初の3章の補完を反映しています。創世記1章と2章は創造があり、エデンの園が

あり、アダムとイブの一体があります。黙示録 21 章と 22 章には新しい創造、エデンの復活、そしてイエシュアと主の栄光ある花嫁との婚礼があります。創世記3章には蛇が人に勝利しており、黙示録 20 章はメシアがサタンに勝利しています。

一つのみことばで相反するよう見えるのは「律法ののろい」です。

ガラテヤ 3:13 – キリストは(中略)私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。

律法ののろいであるという考えは聖書のみことばに対する根本的な誤解を生みました。パウロ(サウロ)は明らかに、律法ののろいであるとは言ってはいませんが、私たちが自身の罪や不従順によってもたらされた律法に書かれた罰からメシアは私たちを贖い出して下さったと書いています。

これは預言者ダニエルの祈りを読むことによって実証することができます。パウロはガラテヤ3章を書く時、恐らくこのみことばが心にあった(あるいは直接引用した)のではないかと私は信じています。

ダニエル 9:11 – イスラエル人はみな、あなたの律法を犯して離れ去り、御声に聞き従いませんでした。そこで、神のしもべモーセの律法に書かれているのろいと誓いが、私たちの上にふりかかりました。

パウロが「律法ののろい」と書いた時、私たちが「律法に書かれているのろい」から贖い出されるといふダニエルの祈りを彼は引用したのです。ガラテヤ3章とダニエル9章との間のつながりを見ることによって聖書の一貫性を理解すると共に、パウロが言わんとしていることを正しく解釈するのを助けてくれるのです。